

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：32621

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K13849

研究課題名(和文)性別違和を覚える人々を巡る性の商業化とジェンダー規範の変容に関する研究

研究課題名(英文)A Study on the Commercialization of Sexuality and the Transformation of Gender Norms for gender-diverse people

研究代表者

石井 由香理 (ISHII, Yukari)

上智大学・総合人間科学部・准教授

研究者番号：90788431

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、性別違和を抱く人や異性装者について、その人たちと商業世界の結びつきに焦点を当てたものである。本研究は主に関西をフィールドとして、性別違和を有する人たちを含む女装者や女装者愛好男性を対象に調査を行った。また、都市にも目を向け、女装者コミュニティと結びついた映画館や個室ビデオ店の取り組みなども関係者に聞き取った。これによって、女装者コミュニティの特徴、都市のなかでいかに女装者コミュニティが受容されていったか、および、女装者コミュニティの人たちの困難性やそれがなぜ社会問題として可視化されないかが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまで十分明らかになってこなかった、異性装者のありようやそのコミュニティの特徴について明らかになった点で学術的意義を有している。また、成人映画館や個室ビデオ店といった場についても、先行研究では十分に明らかにされてこなかったが、場の特徴や機能についても、関連して調査することができた。これらの知見は、当事者福祉を考える面でも鍵になるものであり、すなわち、共通する困難性を抱える人たちについてなぜある人たちが制度から取りこぼされていくのか考えるための知見を提供するものである。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on the gender-diverse identity of people and cross-dressers and their connection to the commercial world. In this study, mainly in the Kansai, we investigated male cross-dressers(jososha), including those with gender-diverse identities, and cisgender men who are attracted to jososha. We also turned our attention to cities and interviewed people involved in initiatives such as movie theaters and a video box that are tied to the jososha communities. This clarified the characteristics of the jososha communities, how the jososha community was accepted in the city, and the difficulties faced by the people in the jososha community, and why they were not visualized as social problems.

研究分野：ジェンダー

キーワード：ジェンダー 規範 異性装 女装者 都市

1. 研究開始当初の背景

既存のセクシュアル・マイノリティ、クィア研究を考えていくうえで、三つのことを指摘できるだろう。一点目が、ジェンダーやセクシュアリティと結びついた存在のなかで、注目されその人たちの生きづらさや困難性が語られてきた人たちと、十分に議論されずに周縁化されてきた人たちがいるということである。また、二点目が、その空間のなかにクィアな存在はいたのだが、シスジェンダー・ヘテロセクシュアルな価値観を前提とした視点での空間が語られて、アカデミックにもとりあげられずにきたということである。三つ目が、セクシュアル・マイノリティは、アイデンティティの問題や、医療や教育分野の問題としては語られてきたものの、商業的な世界とどう結びついていくかについては十分に論じられてこなかったということである。これらを横断する存在として、本研究では、異性装者の人たちに焦点を当てた研究を行った。

本研究では、上記の三つのポイントに照らし合わせた形で、問いが立てられていった。まずは、なぜ女装者コミュニティは未だに、セクシュアル・マイノリティとは一線を画す存在として、福祉や社会問題を考える際の外側に置かれ続けるのか、それは妥当なことなのかという点である。これについては、当事者の語りを通じて、かれらが直面する問題点について洗い出し、また、彼らが自らをどのように語ったかを考察することにした。二つ目は、上記の二つ目と三つ目の問いを絡ませたものであるが、女装者コミュニティの人々と絡めて都市を見直すとは何が見えてくるのかということである。女装者たちは、関西のある街のなかで、映画館やビデオボックス、飲食店などに影響を与える存在であった。それでは、女装者コミュニティはどのような恩恵をもたらし、都市のなかにどのように存在しているかを、映画館やビデオボックスのスタッフなどから聞き取った。これらの施設は商業的なものがベースであるが、斜陽産業であるという点でも一致している。そうした状況下で、女装者コミュニティとどのように関わっていったのか話を聞いた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、特に研究においても周縁化されてきた、女装者コミュニティに着目し、かれらの自己像やライフストーリーの特徴、および、コミュニティを受け入れた商業施設を中心に聞き取りやフィールドワークを行い、現状何が起きているかの把握をすることである。また、コミュニティやそこに所属する人々の脆弱性とは何か、また、そうした脆弱性がなぜ社会的に認知されにくいのかを把握しようとした。また、成人映画館や個室ビデオ店など、メディアの個人化が起こる中で窮地に立たされた場合、その機能を女装者コミュニティとのかかわりのなかでどのように変容していったのか、それが都市にどのような影響を与えたかについても明らかにしようとした。

3. 研究の方法

関西大学の宮田りりい氏の協力を得て、女装者コミュニティに関わる人々へインタビュー調査を行った。2017年9月から2019年3月の間に関西のある下町を中心に行われた半構造化面接法による調査データを収集した。調査時間は90分から300分程度であり、10名が女装者、3名が女装者愛好男性である。年齢層は女装者が20代から60代まで、女装者愛好男性が20代から60代である。質問項目として、年齢、学歴、職歴、家族構成などの基本的な事柄と、主に女装や女装者との関係性を中心としたライフストーリー、また、女装者や愛好男性としての活動内容、性感染症予防の有無などを聞き取りした。並行して、成人映画館のスタッフや、個室ビデオ店の店長、町会長にも聞き取りを行っている。調査は、対象者1-2名と、石井と宮田の二人で行われた。聞き取りに当たって、東洋大学社会学部および上智大学の倫理審査を受け、調査に先立ってすべての対象者へのインフォームド・コンセントを行い、同意書を交わしている。

4. 研究成果

(1) 女装者コミュニティとアイデンティティの特徴

不可視化されてきた女装者コミュニティの成員たちの活動や、コミュニティの特徴、そして人々が抱えるリスクや脆弱性とは何かを考察することができた。また、トランスジェンダーやゲイコミュニティとは違うものという境界の認識が、人々の脆弱性やリスクを不可視化させていることが明らかになった。

女装者や女装者愛好男性は、これまでLGBTQとは切り離された存在として語られ、また、本人たちもそのように自分たちを語ってきたという事実はあるだろう。女装者や女装者愛

好男性たちの語りは、LGBTQの人々が語りにしばしばみられるような、アイデンティティや人権を土台として、承認や平等、理解を求めるようなものではない。かれらの経験は、趣味や遊びといった文脈で語られ、そのためかれらが抱えるリスクや困難性も、社会的な承認をえがたく、個人的なもののみなされる。しかしながら、かれらが抱える困難性は、LGBTQの人たちが抱えてきたものと共通するものであり、これらのセクシュアル・マイノリティたちと同様に、異性愛やシスジェンダーを前提とする社会の中で異端の立場に置かれている。一方で、かれらのジェンダー・アイデンティティや性的指向はその本人の自認が尊重されるべきであり、自らが何者であるかを自己決定するという当然の権利を有する。だが、他方で、かれらが自らを何者と名乗るか、他者からの支援を得られるかどうかが天秤にかけられてはならないだろう。かれらのリスクや困難性は軽視されるべきものではなく、また個人的な問題として片づけられるべきものでもない。だからこそ、かれらが置かれている状況について把握し、必要に応じて社会的な支援を提供できるシステムを構築する必要性が生じている。

(2) 都市コミュニティの問い直し

女装者コミュニティとのつながりを通じて、セクシュアリティの観点を通じて都市の機能とは何かの問い直しを行った。その街ではジェントリフィケーションが進行していたのだが、昭和的な映画館の外見や個室ビデオ店などは、一見、外観上は大きな変化がないようである。たとえば映画館についていえば、レトロなポルノポスターや看板、客層、一昔前の映像コンテンツは、若年者、女性、性的タブーに触れたくない人たちにとっては、警告として作用し、かれらの存在を遠ざける機能をもっている。そのため、映画館が元々もっていた「場」の排他性は維持されたままである。逆に、性に関するタブー意識を有するアウトサイダーを呼び込む装置としては機能し続けている。そのため、中高年の女装者たち、すなわち、異性装がスティグマ化しており、生活世界ではクローゼットの状態にいる人たちと場との親和性は保たれている。さらに、着替えや居場所、コミュニティが集まる場として、この会社が能動的に仕掛けたことで、映画館は女装者にとってさらに有意義な機能を有するようになった。女装者の役割が変化し、多様化していくなかで、かれらはセクシュアルなものとは限らない他者との関係性を求めて、映画館に集まる。こうした情報は公式にはあられなく、女装者と関連したインターネットサイトや口コミ以外ではあまり流通していない。また、店は、女装者を受け入れるかどうかで密かにクラスター化され、そう見なされれば人の流れの動脈に組み込まれる。

ジェントリフィケーションについていえば、これまでこの街になじみが薄かった女装者にとっては、街の治安向上が、その街を訪れたり通うことと結びついていもいる。また、新しい都市コミュニティを誕生させたもうひとつの動力は、女装者、あるいは、女装者と男性との従来の役割が揺らいでいることであり、他者、特に男性のまなざしによって自分をはかり、従順でセクシュアルな関係を常に伴う、という期待の絶対性が薄らいでいることに由来する。代わりに生じたのが女装者同士の関係性であり、彼女たちは特にインターネットを通じて、常に情報を共有し合っている。そうした変化から、女装者たちの多様化したニーズに合わせたサービスを提供したり、居場所を与えること、人と交流するためのスペースを提供できるかどうか商業世界には問われている。また、企業側にとっては、女装者たちをつなぐ情報網へのアプローチが重要である。女装者を喜んで迎え入れる店の情報がアンダーグラウンドに流れることによって、女装者たちが街に惹きつけられ、観光客たちとは別の流れで特定の店を潤し、この街は女装者たちのメッカと認識されるようになっていく。これは、作られた昭和とはまた違うかたちでの昭和的な場の再生であり、街のミクロな活性化が起きた事例としてみなすことができるものだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Yuki Tsubasa, Yukari Ishii	4. 巻 4
2. 論文標題 Cisgenderism in Japanese social welfare systems: experiences of gender-nonconforming people in poverty	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Social Theory and Dynamics	6. 最初と最後の頁 105-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 宮田りりい, 石井由香理	4. 巻 71(2)
2. 論文標題 クロスドレッシング・アウトロー 交流イベントの成立過程と女装者たちの自己語り	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会学評論	6. 最初と最後の頁 266-280
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Yukari Ishii, Lily Miyata	4. 巻 オンライン先行のため未定
2. 論文標題 How Can Mini Cinemas in the Kansai Area Embrace Male-to-Female Cross-Dressers and their Communities under Urban Renewal and Gentrification?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Sexuality & Culture	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s12119-019-09673-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 宮田りりい・石井由香理	4. 巻 50
2. 論文標題 商業世界と女装者との結びつきに関する一考察 大阪新世界エリアのある交流イベントを事例にして	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育科学セミナー	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 結城翼, 石井由香理
2. 発表標題 福祉制度のシスジェンダリズムを問う
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石井由香理
2. 発表標題 性の記憶の場としての映画館 関西のポルノ映画館を題材として
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石井由香理
2. 発表標題 社会的承認と経済・健康・監視リスクー女装者および女装者愛好男性の語りを事例として
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yukari Ishi, Lily Miyata
2. 発表標題 How Can an Entertainment Town in Osaka Embrace Male Cross-dressers and Their Communities?
3. 学会等名 15th Congress of Asia Oceania Federation for Sexology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮田りりい・石井由香理
2. 発表標題 街を巻き込む女装系交流イベントの導入は何をもたらしたのか - 大阪新世界エリアにおける事例から -
3. 学会等名 GID学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井由香理
2. 発表標題 商業世界における性別越境概念
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井由香理、宮田りりい
2. 発表標題 女装者コミュニティを受容する場とその形成：関西のある映画館に着目して
3. 学会等名 GID学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	宮田 りりい (MIYATA Lily)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------